

【0歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立神代保育園
施設所在地	調布市西つつじヶ丘

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) ホログラムの絵本に興味を持っていることから、光の反射できらきらしているもの等にも興味を持つのではないかと考えたため。
--

2. 活動した時期

(例) 令和7年8月 (例) 令和7年8月・10月・12月の計3回 令和7年10月・12月・12月・1月の計4回
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ・アルミホイルを使用した玩具の作成。 ・カラーフィルムを貼り付けた道具の作成。 ・探索を楽しめる公園へ散歩に出かけた。
--

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ カラーフィルムに直接触れてみる。
- ・ アルミホイルで光を反射させる玩具を作り、太陽やライトなどの光を反射させてみる。
- ・ カラーフィルムに光を通して地面に色をつけ、観察する。
- ・ カラーフィルムの虫眼鏡を用いて様々なものを見てみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ アルミホイルの玩具に光が反射しキラキラしている様子を見ると気になり、玩具を触ろうと手をのばしていた。実際に触ってみると不思議そうに中を覗き込む姿も見られた。
- ・ カラーフィルムを通った光が地面に反射すると地面を触ってみたり、子どもの足に反射させた際には自分の足に色がついたことに驚きの表情を浮かべていた。
- ・ 直接カラーフィルムを覗いて保育者と目を合わせたり、色のついた世界を見て楽しむ姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

0歳児でも不思議を発見して探求する力がとても強く、様々な物事に興味を持って楽しめることが分かった。保育者が様々な環境や玩具等を提供することで、子どもの興味が広がり、自ら学ぶ力がつくのだと感じた。

【1歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	神代保育園
施設所在地	調布市西つつじヶ丘1-40-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・素材の感触の違いを感じて楽しむ。
- ・水を加えることで形状や触り心地の変化を楽しみ興味関心を深めていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
直接触れて遊ぶことの楽しさを知る時期でもあるため、興味関心が持ちやすい素材を選んだ。

2. 活動した時期

令和7年6月 8月 令和8年2月 計3回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ・片栗粉
 - ・お盆
 - ・容器
 - ・スプーン
 - ・水

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・各自お盆に片栗粉を適量用意して、感触を楽しむ。
- ・感触を楽しんだ後、水を加えたことで片栗粉の形状や感触の変化を楽しむ。
- ・水遊びの際に片栗粉遊びを行い、手足や窓に塗り楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めはあまり触りたがらない子もいたが、回数を重ねるうちに楽しむようになった。

片栗粉の感触や形状の変化に注目して、器や直接手から垂らして様子を眺めたりするなど子どもなりに工夫し、集中して取り組んでいた。

保育者は子どもの集中が逸れないよう、子どもからの声かけに答えるのみの対応をした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

初めは触りたがらない子も数名いたが、触らなくても遊べるようにスプーンを用意して取り組みやすくすることで、楽しむことができた。今後子どもの様々な活動を行ううえで、子どもの個性に合わせた活動提供を考えるきっかけになった。

【2歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	神代保育園
施設所在地	調布市西つつじが丘1-40-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃から廊下や外から聞こえる些細な音に敏感に気づき、「いまのなんのおと？」と不思議に思うことが多いことから、自然物や人工物、楽器など様々な媒体の音を聴いたり見たりすることで子どもたちの探求心を深められると想定した。

2. 活動した時期

令和7年度 10月・11月・11月・11月・1月の計5回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・園庭や公園に出て、オシロイバナの種やドングリなど様々な自然物を採集しに出かけた。
- ・ペットボトルやプラカップの入れ物を用意し、マラカス作りをできるようにした。
- ・段ボールで坂道を作り、ドングリを転がすことで音の変化を楽しめる環境を整えた。
- ・落ち葉に触れ、触ったり踏んだりして子どもたちが自由に試せるようにした。
- ・タンバリンを用意して、自由に叩ける環境や簡単にリズムを叩けるような音楽を準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

どんぐりやオシロイバナの種を入れたマラカスを振り、素材によって音が異なることを楽しんだ。また、段ボールの坂道でどんぐりを転がし、「コロコロ・トン」と転がっておちていく音や様子を楽しんだ。園庭や散歩先では、落ち葉を拾ったり踏んだりして感触や音の違いを感じる活動を行った。

おままごとの食具を太鼓のバチに見立てて叩いて遊ぶ姿から、タンバリンを使った楽器遊びを行った。自由に鳴らすことを楽しんだ後、音楽に合わせて鳴らして楽しめる活動を行った。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分好みの量で調整した手作りマラカスを振りながら歩いて「カラコロ」となる音を楽しんだ。また、他児のマラカスと聞き比べながら「違う音だね」などと違いに気づいていた。段ボールの坂道では、転がった先に置いた紙コップが「コン」と鳴る音を楽しんだり、落ちる様子を何度も観察して楽しんでいた。

落ち葉とのかかわりでは、「やわらかい葉とぱりぱりの葉を拾って!」とお願いすると、自分たちで触って確かめながら、「これはぱりぱりじゃないよ!」などと気づきを伝える姿や、足で踏んだり、両手ですくって舞い上げたりして様々な音を楽しんでいた。

タンバリンの活動では、最初は太鼓のように平たく置いて叩いていたが、正しい鳴らし方を伝えと、両手で持って叩いたり鳴らしたりして楽しんでいた。音楽を流してみると、音楽に合わせて叩いたり鳴らしたりするほか、保育士の動きを見ながら体を揺らしてダンスのように楽しむ姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

自然素材を通して、子どもたちが音の違いや面白さに気づき、繰り返し試す姿が見られたことから、音への関心や探求的なかかわりがはぐくまれていると感じた。また、音に着目した活動でも、感触や物理的な性質に加え、自然物そのものへの興味・関心を深める姿が見られた。

【3歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	神代保育園
施設所在地	調布市西つつじヶ丘1-40-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水に泡や絵の具、砂などを混ぜたり、凍らせてみたりすることで水と様々な物・事象の関係性や変化について体験的に知る。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

水は子ども達が日常生活で触れる身近なものであり、日ごろから興味を持って見たり触れたりしていることから、水の変化についてその興味・関心をさらに深めたい。夏の水遊びから冬の雪遊びまで、絵具や砂など他の素材も取り入れながら水の変化を体験的に知り、楽しむ機会を設けたい。

2. 活動した時期

令和7年7月・8月・9月・令和8年2月の計17回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

タライ、水、食紅、絵の具、氷、砂、雪、深皿、コップ、ペットボトルなど

・園庭の砂場にホースで水を流し、泥遊びを行った。

・タライに水を張り、そこに絵の具や食紅を入れ色水を数種類用意した。さらに自分で混色できるように様々な容器を用意した。製氷皿で作った色水の氷も使用した。

・雪が降った翌日に園庭で雪を集め、絵の具の色水を数種類用意し雪にかけて遊べるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園庭の砂場で水と砂を混ぜて泥に変わっていく様子を見ながら遊んだ。
- ・数色のタライから自分で好きな色を選び容器に入れ、眺めたり混色したりした。
- ・色水の氷をタライや深皿やコップに入れ、溶けていく様子を見ながら遊んだ。
- ・雪を深皿に入れてそこに好きな色水をかけ、色が変わっていく様子を見ながら遊んだ。着色した雪を園庭の隅に並べておき、午後その雪がどうなったか観察した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・色水を日に透かし「きれい」と言って喜ぶ。自分の容器に様々な色水を入れ「〇〇色になった」「△△ジュースみたい」と言いながら混色していた。作った色水をコップに入れてジュースに見立て、保育者や友だちに渡しジュース屋さんごっこを楽しんでいた。友だちの作った色に憧れて少し分けてもらったり同じものを自分で作ろうとしたりする姿が見られた。また、氷が溶けていくのに気づき「小さくなった!」「なくなっちゃった」と保育者に報告する子もいた。
- ・泥遊びでは、砂に水がしみこんでいく様子を観察し、自分でも混ぜてみていた。泥を容器に入れて料理に見立て、友達や保育者とままごと遊びを楽しんでいた。
- ・雪遊びでも、雪をかき氷に見立てて水遊び同様混色を楽しんでいた。午後、とっておいた雪が水になっていると、シャベルですくってみたりして不思議そうに見ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・水（氷・雪）にふれるとどの子もじっくりと集中して自分の遊びを楽しむことができる。水に触れること自体が心地よく、気持ちを解放させて遊ぶことができた。
- ・手にもって氷や雪の冷たさを感じ、体温でだんだんと溶けて水に変化する様子を観察し体験的に変化を楽しむことができた。
- ・水に絵の具や砂や石鹸を混ぜることで、色の変化や砂・泥・泡など質感の変化を楽しみ、ジュース、かき氷、チョコレートなどいろいろなものに見立てて遊びを発展させることができる。

【4歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	神代保育園
施設所在地	調布市西つつじが丘1-40-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）日中の遊びの中で、影や虹への興味関心があることを感じていた。ある時、絵本の「なんのかげ？」を読み聞かせをしてみると、大変関心をもって聞く姿が見られた。読み聞かせをしている中で「どうやってできるんだろう？」「なんでこうなるの？」と疑問に思う姿が見られたため、テーマとして設定することにした。

2. 活動した時期

令和7年9月22日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

影絵にちなんだ絵本を読み、影絵遊びのイメージを膨らませた。その後、大きな白地の紙でスクリーンのようなものを準備し、光を当てた。低い姿勢で楽しめるよう、マットを敷き、マットの周りに様々な玩具を種類ごとに置く。洗濯ばさみなど工夫して形をつくるものは、机の上に置き、作れるスペースを作った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

影絵遊びのイメージが広がるよう、絵本「なんのかげ？」を読み聞かせした後、大きな白地の紙でスクリーンのようなものを準備し、光を当ててみる。そこから体や玩具を使ってスクリーンに映し出された影を楽しむ。自分なりに工夫して玩具を組み合わせたり、友達がやっているのを真似したりしながら、様々な影を作って楽しむ。途中から、ライトを2か所に分け、影にどのような違いが表れるのか試して遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分の身体を使って影を楽しむ児や、玩具を使って自分なりにイメージした影を映す児、友達同士で影を使ったクイズを行う児など、様々な楽しみ方をしていた。「それどうやって作ったの?」と友達の作った影に刺激を受けて自然と会話が生まれていた。「先生、見て」と自分が作った影を保育者に伝え、言葉で認めてあげることで達成感を味わっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

絵本の内容を遊びに取り入れることで、想像する力やそれを表現する力が育てられると感じる。自分なりに考えたことをすぐに試すことができ、即自的に影として反応がわかるため、子どもにとってわかりやすく楽しめる内容であった。また、自由度の高い活動であり、正解や不正解のない遊びであったため、友達の姿を見て自分も真似してやってみようと試行してみたり、友達と工夫して楽しむ姿が見られ、自分から遊びを展開しようとする力が育まれていると感じた。

【5歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	神代保育園
施設所在地	調布市西つつじヶ丘1-40-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

紙飛行機

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本を見ながら折り紙を折ることに興味関心が向き、中でも紙飛行機は作って飛ばす楽しみがあるため夢中になっていた。紙飛行機の形や飛ばし方により飛ぶ距離や方向が違うこと等に気づき始めており、その興味関心を更に深めてみたいと思ったため。

2. 活動した時期

令和7年9・10・11・12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

紙飛行機を飛ばしやすいように広く空間を作り、部屋の上部に形や大きさ、素材の違う輪を吊り下げた。園庭でも飛ばしてみた。素材は折り紙や広告紙、新聞紙等を使い、大きさの違う紙も準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・本を見たり友だちや保育士に作り方を教わりながら、自分で紙飛行機を作った。
- ・友だちと飛ばし合って飛距離を競ったり、軌道を試して楽しんだ。
- ・部屋の上部に吊り下げられた輪をくぐらすように紙飛行機を飛ばして楽しんだ。
- ・園庭でも飛ばしてみても、風の具合で飛び方が変わることを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

友だちとどれくらい飛ぶか競争しながら、もっと飛ぶように紙の素材や大きさを変えたり、折り方を変えて作っていた。「この紙で、こうやって折ると良く飛ぶよ!」と、友だちと教え合っていた。折り紙の本を見ながら作ることも上手になった。

輪の中をくぐらすように飛ばす際は、それぞれの輪にうまく通るように慎重に飛ばす姿が見られ、何度も挑戦して成功すると飛び上がって喜んでいた。「もっと輪を増やして!」と保育士に話す子もいた。

上手に飛ばすことができる友だちに飛ばし方を聞き、何度も飛ばしてみる姿も見られた。外の風や空調の風によって紙飛行機の飛び方が変化することに興味、関心を持ち、飛ばしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・はじめはあまり関心を示さなかった子も、友だちがやっているのを見たり教えてもらい、次第に夢中になっていた。汗をかくほど楽しんでいた。
- ・紙の素材や大きさによっても飛び方が異なることに気づいていた。
- ・輪をくぐらすことは難しいができたときの達成感が大きく、繰り返しできる遊びであると感じた。